令和　　4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1292400312		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームきくまの家		
所在地	千葉県市原市菊間2394-2		
自己評価作成日	令和4年3月20日	評価結果市町村受理日	令和5年6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和5年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族との面会にはLINEでのオンラインに加え、玄関ホールでの15分以内の面会も行っています。
調理や買い物など1年前と比較し、利用者が関わる比率を高めています。
食事の前や午後の余暇時間などを活用し、職員と体操や運動などを行っております。
月末には1か月の出来事を写真としてご家族にお便りとして郵送しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念は「気持ち」と「動き」を気づき、有する能力を最大限活かすように支えますなどとしてパンフレットなどで周知している。日々着るもの、飲み物や食事のドレッシングなどを選べるようにしており、利用者支援の軸としている。また、調理、食器洗い、シーツ替えなどを職員と一緒におこなっている。残存機能を活かす良い取り組みだと思われる。入浴は週3回を基本としており、朝から夕方まで利用者が好きな時間を選択できるようにしている。また、食事においては、月１回は利用者と職員が一緒に献立を考え、食材の買い出しに出かけ調理も一緒におこなう機会をつくっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と介護保険法の理念を共用の場所に貼り、職員の共通認識としている。	理念の概要は利用者の「気持ち」と「動き」に気づき活かす、地域に貢献するとしてパンフレットに記載し職員ロッカー室に掲示している。月次のホーム会議で事例をもとに理念に沿った支援ができているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の状況をみながら、地域の商店へ行く機会を増やしています。	近隣を散歩したり、地域の理髪店に行く利用者もいる。また、近隣の人がホームを訪ねてくることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウィルスの影響もあり地域の人々に向けて活かしてはいないが、入居見学や相談は予約なく対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市原市からの指示により、書面にて議事次第を送付し、いただいた意見を議事録にして報告し、参考にしている。	運営推進会議は書面での報告としている。報告先は町内会長、薬局、医師、歯科医師、社会福祉協議会、地域包括支援センター、市の担当者などである。入居者の状況、行事報告、事故報告などを対応も含めて報告して意見をもらっている。	議事録は全家族に送付したり、職員間で回覧するとよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター4カ所（昨年は2ヶ所）に挨拶に行き相談を受けている。	介護保険についての相談などで、市の高齢者支援課と電話やメールなどでやりとりをしている。地域包括支援センターには運営推進会議等で相談し、意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関施錠は行わず、GPSを活用。室内では赤外線センサーを活用し、行動制限につながらないよう対応し、2ヶ月に1回評価しています。	「身体拘束等行動制限についての取扱要領」を策定し、定期的に研修をして職員に周知している。身体拘束適正化委員会を3か月に1回実施して現状について話し合っている。現在、身体拘束の事例はない。スピーチロックについては職員同士で注意をしあえる関係である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新しくなった虐待防止の指針を基に、3ヵ月毎の目標を設定し、取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶことや、活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者やご家族と事業所のホーム長が対面で説明を行い、質問に対しての説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話、メール、LINEも活用しながら自由に意見がもらえるようにしており、いただいた意見はホーム運営に活かすよう心掛けている。	家族からの意見、要望は、通常の面会や介護計画策定時、変更時などの電話等で聞いている。利用者とは普段の会話の中で聞き取るようにしている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回の職員面談、月1回のホーム会議で意見の吸い上げを行い、反映させている。	職員に年2回の面談や月１回のホーム会議で意見を聞いており、日常的にも聞くようにしている。休憩の取り方などについて意見があり、柔軟に対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回の職員面談や、LINEを活用して意見を聞いている。資格取得や契約時間変更における昇進推薦も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内のOJTとしては日常の支援毎根拠を伝えながらの説明をを行い、毎月の会議の時間を使い、研修も始めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウィルスの影響もあり、外部との接触は控えている。代表者としては、zoomを活用しての同業者との意見交換や研修参加者との意見交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居前面談の場で本人が困っていることを言葉や行動から知る事ができるように積極的に本人の話を傾聴するよう努めているとともに、体験入居も取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や入居前面談の場で家族から話しを聞き、不安に感じることや要望に対し聞くだけで終わりにはせず、ホームで出来ることを伝えるようにしている。メールなども活用。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話の中から必要としている支援を専門職として見極め、デイケアや訪問サービスなどの提案も行い、利用する場合の連絡調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除などの生活場面の中で、その方のできることをみつけ職員と一緒に行い暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、行政手続き、季節の衣類入れ替えなどごご家族に依頼を行いつつ、ご家族が対応出来ない時には職員による代行も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があった場合には、キーパーソンに確認しながら、短時間の面会、電話などによる親族や友人とのつながりも支援している。	面会は2名15分としており、オンライン面会も可能である。家族だけではなく友人の来訪もあるなど関係継続を支援している。携帯電話を使用する利用者も多くいる。また、感染対策をしたうえで、家族と食事に行ったり法事で外泊するなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は入居者同士の関係をみながら決めているが、本人の意志で随時変えることも行っている。また職員がつなぎになれるよう一緒に関わりをもっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の家族からの相談じは応じる姿勢はあるが、現時点で退去した本人、家族からの相談はありません。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の希望や意向を聞きくとともに、入居者同士の会話からも思いにきづき、介護記録に残し、会議や日々の勤務の中で検討している。	ゆっくり会話する時間を取るようにして、思いの把握に努めている。把握した情報は記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居した後においても、本人やご家族から話しを聞き、職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での過ごし方や有する能力は介護記録として残し、職員全員が情報把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議でカンファレンスや随時聞き取りを行い、訪問診療や看護師からの意見も取り入れ、本人がより良く暮らすことができる介護計画を目指している。	毎月のホーム会議内でカンファレンスをおこなっている。職員や家族の意見を聞き取り、必要に応じて、医師、看護師の意見も入れて介護計画を作成している。6か月に1回見直しており、利用者の状況に変化があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践における気付きや工夫を介護記録として個別に残し、情報共有して次の実践に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外への散歩、食べたいものの買い物、訪問マッサージの活用、外部受診付き添いなど、ニーズに都度対応できるよう心掛け、対応できる際には対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウィルスの影響もあり積極的には行えていないが、近隣の理髪店など店舗の利用、近所のゴミ拾いを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックとは連絡を密にとり、提携以外の病院にも情報提供してもらいながら専門的な受診も行い、適切な医療を受けられるように支援している。	月２回の訪問診療がある。また、職員として看護師を配置しており、週2回看護師が利用者の状態を診ている。24時間のオンコール体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週２日ホームの看護師に情報を伝え、助言をもらったり医療処置を行ってもらっているとともに、24時間電話連絡がとれるよにしている。特指示があった場合の訪問看護とも随時連絡をとりながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	新型コロナウィルスの影響もあり面会に行くことはできないが、電話での状況把握を病院や家族と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期いずれも、主治医と家族と話し合いをもちながら、ホームでできる限りの支援を行っています。	契約時に、「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」で説明し同意を得ている。医師がターミナルと判断した場合は、医師から家族に説明し、管理者が家族の意向を確認している。看取りを希望する場合は、看取り計画を作成して、支援している。	看取り対応後の振り返りをおこなうことで、職員の心のケアとスキル向上につながると思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回以上行われている社内研修に代表者が参加し、ユニット会議で報告しているが全職員に実践力が身についているとはいえない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練によって、火災、水害、地震などの場面を想定し、避難できる方法の訓練を行っているが、地域との協力体勢はまだ築けていない。	火災、水害、地震を想定して、年2回訓練を実施している。発電機の稼働訓練を同時におこなっている。地域との協力体制は今後の検討課題としている。	備蓄食料、備品の一覧表があるとよいと思われる。また、事業所としてBCPを作成することを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れた言葉遣いにならないよう、普段の関わりの中で気になる言葉を随時伝えるように心がけている。	言葉遣いに気をつけたり、プライバシーに配慮するなど、基本を大切にしている。プライバシーについては、掲示する写真についても個別に同意を得るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の選択、衣類の選択、入浴時間など自己決定出来る場面ができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員が決まった時間に同じことをするのではなく、その日に過ごしたいこと、その時間にやりたいことを聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んでもらったり、外出の際には化粧ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けと一人一人のできることを職員と一緒に行い、時には職員が教えてもらっている	利用者もエプロンを付けて、下準備や、食器洗いをしている姿が見られた。季節によって流しそうめん、おはぎづくりを楽しんだり、利用者の希望でビーフカレーなどを提供することもある。また、栄養指導を受けて、たんぱく質の確保に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量を記録に残している。また食べやすい形状や好みも把握し、出来る限り偏りがないよう支援し、必要によては栄養士による栄養指導の力も借りている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しから必要に応じた介助も行っている。また、訪問歯科からの助言もいただきながら、方法の表を作成し支援に活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表も活用しながら一人一人の排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレで排泄ができるよう支援している。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、適切な誘導によりトイレで排泄できるように支援している。その結果リハビリパンツから布パンツに移行した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操でや家事で身体を動かす、飲水量の把握、医師との相談後の下剤の使用を行い、必要に応じて腹部マッサージも行い、便秘にならないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な予定はあるが、無理強いはしない声かけを行い、予定ではない日にも入浴ができるよう支援している。	2階はリフト浴、1階は機械浴が備えられていて、すべての利用者が浴槽に入ることができる。週3回を基本としており、利用者が好きな時間に入れるように支援している。菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤などを楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の生活の様子を見ながらベッドやソファーで休む時間も勧めている。就寝時間は職員が決めず、寝たい時に眠ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師、看護師から薬の説明を受け個々のファイルを作成し把握。内服後の症状の変化を伝え、調整なども行ってもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に好きだったことに捉われず、新しく好きになるかもしれないことも大切にする支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウィルスの影響もあり積極的には行えていないが、近隣の散歩、散髪には行きたい時に行く事ができるよう支援している。	コロナ禍でも近隣には出かけており、理髪店に出かけたり焼き芋を買いに出ることもあった。今後は成田山詣でなども検討したいとしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の自動販売機での自由な買い物や近隣の店舗、移動販売で買い物するときには好きな物が自分で買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話の使用やホームの電話やタブレットによるLINE通話ができるよう支援し、年賀状や届いた手紙の返事などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物を一緒に作成し廊下やリビングに飾っている。リビングの常時換気により室温が不快にならないよう空調で調整を行っている。	リビングには大きなテーブルが配置されていて、利用者は、ゆっくり過ごしている。ソファも設置して寛げるようにしている。また、見やすい時計やカレンダーで見当識障害に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVや新聞を見たり、ソファーや座席や屋外で自由に過ごしたりできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	刃物、火を使うもの以外の、使い慣れた家具や寝具を持ってきてもらい生活しながら必要な物を増やすなどの工夫をしています。	居室には個別に手すりの位置を変えて、安全に過ごせるようにしている。利用者は家族の写真や仏壇、趣味の手芸の道具などを持って来て、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造の中に必要に応じて手摺りや案内を随時増やし、わかりやすくて安全に生活できるよう工夫しています。		